

P2-013

乳幼児を持つ母親を対象とした「遊びの広場」における育児支援

関 美雪¹、森田 満理子²、吉岡 幸子³、
伊草 綾香⁴

¹埼玉県立大学保健医療福祉学部 看護学科

²埼玉県立大学保健医療福祉学部 社会福祉子ども学科

³帝京科学大学医療科学部 看護学科

⁴埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 博士前期課程

【はじめに】

核家族化、地域のつながりの希薄化により、子育てを助けてくれる人や子育てについて相談できる人がそばにいないことなどを背景に、育児に不安を持つ親は増えており、育児支援は重要な課題である。

【目的】

遊びを通じて母親の育児不安を軽減することを目的として、乳幼児を持つ母親を対象に「遊びの広場」（毎回遊びを中心に活動を行い、同時に子育て相談も開催）を開催した。子育て相談の内容から、育児支援の役割について検討した。

【方法】

平成26～28年の3年間で、遊びの広場を15回開催した。子育て相談の内容について記録し、その内容について検討した。研究の実施にあたり、所属大学の倫理委員会の承認を得た。

【結果】

遊びの広場の内容は、1. おもちゃ遊び、2. 保護者と乳幼児の手遊びと歌遊び、3. 絵本の読み聞かせの3つの内容で構成されている。参加した親子の延べ人数は、26年度（4回開催）74名、27年度（4回開催）48名、28年度（7回開催）99名であった。遊びの広場の活動中に保健師1名が随時対応する形で育児相談を行なった。その結果、相談内容の件数は、26年度19件、27年度22件、28年度36件であった。育児相談の内容は、離乳食のすすめかたと量、偏食や少食など食事に関する内容、アレルギーや予防接種など健康に関する相談内容があった。さらに、子ども同士のおもちゃの取り合いやけんかへの対応、人見知りや後追いなどの発達に関する内容など育児に関する相談内容もあった。また、他の子とつい比べてしまう、寝返りができるようになった、子育てが少し楽になってきたなど日頃の育児に関する内容について、保健師が話しを聴く場面も多かった。

【考察】

健康に関する相談は、医療機関を受診するほどではないが、気になっていることについての相談内容が多かった。子どもの発達や日頃の育児に関する内容については、相談というよりも聴いてほしいという内容であった。遊びの広場の回を重ねるごとに、子どもの成長発達に関する健康相談だけでなく、日頃の育児の状況を話す参加者もいた。参加者が育児の状況を話すことができる場の提供や、子育ての状況を確かめることにつながり、遊びの広場が、育児不安の解消や安心感をもてる場としての育児支援の役割を担うことができたと考える。

P2-014

乳幼児の排泄、清潔、着脱衣習慣の獲得
—保育者への子どもの基本的な生活習慣調査より—

鷺見 裕子¹、宮崎 つた子²

¹高田短期大学 子ども学科

²三重県立看護大学看護学部

【目的】

乳幼児期は基本的な生活習慣の獲得が大切な発達課題であり、幼稚園・保育所の指針等においてもその重要性が示されている。近年は子どもの基本的な生活習慣の乱れや育児不安など多くの課題がみられる。本研究は子育て支援の取り組みの基礎資料とできる基本的な生活習慣の現状把握を目的とした。本報告では保育者への調査を通して乳幼児の排泄、清潔、着脱衣習慣の獲得過程の変化について検討した。

【方法】

A県内の協力の得られた保育園の保育者を対象に、平成28年3月に日頃感じている基本的な生活習慣の獲得時期と指導留意点について無記名自記式質問紙調査を行った。獲得時期の項目には高橋*による発達基準を示した。倫理的配慮は研究の趣旨等を紙面に示し、返信をもって同意を得た。なお、本研究は所属大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

回答を得た113名（回収率66.5%）より習慣ごとに記述不備を除いて分析対象（排泄91名、清潔78名、着脱衣75名）とした。排泄習慣では、獲得時期に変化を感じると半数の保育者が回答した。排泄行動の獲得時期では4～6割弱の保育者は変わらないと答えたが、変化を感じている回答では、「オムツ離れ」は4割が遅くなったと、「排泄事後通告」や「排泄予告」についても遅くなったが多かった。「決まった時間に排便する子どもの数」が減ったが1/3あった。排泄習慣獲得の遅れの要因については、紙パンツの性能の向上と依存による親の排泄習慣に対する意識の低さが記述にみられた。また、排便の規則性がなく便秘の子が多いとあった。清潔習慣は、約4割が獲得時期に変化を感じていた。「朝の歯磨き」、「手洗い」、「石鹸の使用」が早くなったと感じる保育者が多かった。記述からは乳児用の歯ブラシの普及や健診での歯磨き指導で早くからケアする親が多いこと、石鹸では固形石鹸が泡立てられないがみられた。着脱衣習慣も獲得時期に変化ありは約4割であった。「着脱の意欲」は7割が変わらないとし、「ボタン掛け外し」時期が遅くなったとする保育者が多かった。子どもが自身でする前に、親が手を出して自立は阻んでいる記述が多かった。

【考察】

保育者は3習慣獲得で半数程度が変化を感じていた。排泄は遅くなる傾向が、清潔は早い傾向がみられた。要因はオムツや清潔製品、着脱容易な衣服の普及と、親の習慣意識が考えられる。*高橋弥生他：「健康」一藝社（2011）